

令和3年度 袋井西小学校研究構想図

学校教育目標

「みんなで学び ともに高め合う子」

目指す児童像

「あきらめず考え続ける子 誰にでも優しい子」

目指す学校像

「一人一人の良さを認め、全ての子供を勇気づける学校」

研修主題

「学びをつなげる子の育成を目指した授業づくり」

目指す子供の姿…学びをつなげる子

縦のつながり

既習の知識や生活経験、学びへの期待から、課題の解決方法や新たな課題を見出している

横のつながり

他者や環境、資料との対話やつながりを通して多面的に捉えることにより、自己の考えを広げ、深めている

「分かる」「できる」を実感する子供

研修主題に迫るための重点

『付けたい資質・能力』と『身に付いた姿』をつなぐ単元構想

評価基準の作成、共有

ICT機器の日常的な活用

安心して学べる学級づくり

- ・ 聴く指導…受容的な雰囲気づくり
- ・ ボイスシャワー…学習意欲の向上

教員の確かな授業力の向上

- ・ 職場内OJTの活性化 ・ 個人研修
- ・ 単元構想の共有、構想図の作成

子供が「分かる」を実感するためには、教師が「子供にどんな資質・能力を身に付けさせたいか」を理解していることに加え、「資質・能力が身に付いた姿とはどんな姿なのか」をイメージできていることが大切である。身に付けさせたい資質・能力をもとに、その授業の終末で、子供にどんな姿になってほしいかを授業者が具体的にイメージし、その姿から逆算して授業作りを進めたい。

そこで本年度は、昨年度に引き続き「単元構想」を重点として研修を進めていきたい。目的として、

- ①教師、子供が見通しをもって授業を進めること
- ②単元のどこで、どのような資質・能力を身に付けさせたいのかを明確にすること
- ③資質・能力を身に付けさせるには、どのような学び方が適しているのかを明確にすること
(個、ペア、グループ、思考スキル、ICTの使用など)
- ④単元のどこで、どのような評価を行うのかを明確にすること

の4つが挙げられる。本年度はこれに加え、「授業前に評価基準をつくること」を重点とする。教師が「子供に資質・能力が身に付いた姿」を具体的にイメージしてから授業に臨むことで、より良い指導や支援をすることができるようになると思う。

以上を重点として授業づくりをすることで、研修主題に迫りたい。